

平安の苑

南神苑のこのエリアは、平安時代（794～1185）の文学の影響を受けています。ここにある多くの草木や花々は、平安時代の宮中での暮らしを描いた「源氏物語」など、数々の古典の詩や古典文学に登場しています。古典の大作である「源氏物語」は、11世紀の女官であった、紫式部が書いたものです。

400年近く続いた平安時代は、日本の歴史上でも、最も芸術や文化が開花した時代の一つでした。5世紀に日本に伝わった仏教も平安時代に興隆しました。仏教とともに、書道、絵画、彫刻、詩なども隆盛し、宮廷生活に欠かせない芸術となりました。平仮名もこの時代に作られ、現在国歌として歌われている「君が代」が書かれたのも平安時代です。

植物の前に置かれる看板には、その植物が登場する文学作品からの引用文が記されています。庭園のこのエリアでは、エゾカワラナデシコ、ヤマハギ、あじさいなどの様々な花々を見ることができます。